

多文化共生時代の医療

移民の健康と医療政策への示唆
(アジアの4つの国と地域および米国との比較)

無料

要事前
申し込み

2026

3 / 4 水

14:30-17:30

会場

京都大学医学キャンパスG棟3階演習室

医学キャンパスマップ: <https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r-i>

開催方法/言語

ハイブリッド (現地開催 & ZOOM)
英語 (字幕翻訳あり)

お申し込み方法

参加申し込みはGoogle Formから
<https://forms.gle/A8ajdkNRmrB233x68>



申し込み締切: 2月28日(土)

概要

近年、アジアでは少子高齢化の進行に加え、労働力確保の必要性やグローバルおよび各国の政治・経済・社会情勢の変化を背景として人の国際移動が一層活発化しています。こうした状況のもと、移民の健康と医療へのアクセスは、多文化共生社会の持続可能性を考える上で重要な課題となっています。本国際セミナーでは、アジアの4つの国と地域 (香港、台湾、タイ、日本) および米国を対象に、移民の健康に焦点を当てた最新の研究成果を共有するとともに、そこから得られる現状認識および医療政策への示唆について研究発表とディスカッションを通じて議論します。本国際セミナーは、日本人および日本に在住する外国人の双方にとってより良い医療制度の実現を目指し、多様なニーズに柔軟かつ寛容に応える医療を、共に考え協働する場として、関心をお持ちの皆さまのご参加を心より歓迎いたします。

登壇者



中山 健夫



河野 文子



山下 正



Jie Zhao



Wan-Chen Lee



Kwanjai
Amnatsatsue



當山まゆみ



村山裕一

プログラム

14:30~14:35	開会の辞・セミナーの趣旨説明
14:35~14:50	話題提供: 移民の健康と文化的適応力
14:50~15:30	日本の移民研究
15:30~15:40	休憩
15:40~16:40	香港・台湾・タイの移民研究
16:40~16:50	米国の移民の研究
16:50~17:25	パネルディスカッション
17:25~17:30	閉会の辞

登壇者

中山 健夫	京大SPH 健康情報学
山下 正	京大・人間健康科学系専攻
河野 文子	京大SPH 健康情報学
Jie Zhao	香港大学
Wan-Chen Lee	国立台湾大学
Kwanjai Amnatsatsue	マヒドン大学
當山まゆみ	京大SPH 健康情報学
村山裕一	京大SPH社会疫学

講演 01 [14:35-14:50]

京都大学大学院医学研究科
社会健康医学系専攻
健康情報学教授 中山健夫

話題提供：
移民の健康と文化的適応力

移民が受け入れ社会で直面する健康課題を、言語・文化・生活習慣・社会制度の違いといった観点から整理する。とりわけ、文化的適応力が心身の健康状態、医療・福祉サービスの利用、地域社会との関係形成に与える影響に注目する。日本における移民支援や現場の実践事例を紹介し、専門職・地域住民が果たす役割や、多文化共生社会の実現に向けた課題について考察する。

講演 04 [15:40-16:00]

香港大学 Division of Epidemiology and Biostatistics, School of Public Health, LKS Faculty of Medicine
Dr. Jie Zhao

Healthy Lifestyle Training in Migrant Domestic Helpers in Hong Kong: Turning Service Providers to Health Ambassadors

香港の移住家事労働者 (Domestic Helpers) を対象に、健康的な食生活とヨガを取り入れた実践的な健康教育プログラムを実施した。対面研修とオンライン配信を通じて多くの参加を得て、行動変容や知識共有への高い意欲が確認された。NGO等との協働により、持続可能で展開可能な移住者の健康支援モデルの有効性を示した。

講演 07 [16:40-16:45]

京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻
健康情報学特定講師 當山まゆみ

在米日本人における高齢期の課題と帰国・定住の選択

在米日本人を対象としたインタビュー調査より、在米日本人が感じている高齢期の生活・医療・社会的課題を整理し、帰国・定住の意思決定に影響する要因を検討する。

講演 02 [14:50-15:10]

京都大学大学院医学研究科
社会健康医学系専攻
健康情報学特定講師 河野文子

外国人技能実習生の受入れと生活課題：
医療・ウェルビーイングへの示唆

日本では人口高齢化と若年労働力の減少により、労働力不足が深刻化している。これを背景に1993年に外国人技能実習制度が創設され、日本で生活・就労する若年外国人が増加してきた。本発表では、日本在住のベトナム人・インドネシア人技能実習生への調査を基に、医療やウェルビーイングを含む課題を整理し、事後対応に依らない包括的・予防的アプローチの重要性を示す。

講演 05 [16:00-16:20]

国立台湾大学 Institute of Environmental and Occupational Health Sciences, College of Public Health
Dr. Wan-Chen Lee

Empowering Industrial Migrant Workers Through Native-Language OSH Training: Taiwan's Transition from Research to a Pilot Initiative

台湾の産業分野で働く移民労働者は、言語の壁や不十分な研修制度により労働安全衛生上のリスクが高い。本発表は、4年間の現地調査と政府助成研究を基に、台湾に住む移民を対象に実施された、母語による労働安全衛生研修の試行事業を紹介し、得られた教訓、制度・規制上の課題、今後の政策形成や地域連携への示唆を考察する。

講演 03 [15:10-15:30]

京都大学大学院医学研究科
人間健康科学系専攻
地域健康創造看護学准教授 山下正

多文化共生時代のメンタル支援：
在日ベトナム人の声から

日本ではベトナム出身者が近年急増し技能実習・特定技能など就労の為の来日が多い傾向にある。若年層中心で言語・文化差や医療制度への理解不足が受療／相談の障壁となる。本報告では疫学調査、自由記述分析、コミュニティ支援観察を統合し孤独・不安の要因を整理する。さらに多言語デジタル支援の設計とLLMシナリオ対話による相談ポット評価を含む開発進捗を示し多文化共生に資する支援のあり方を考察する。

講演 06 [16:20-16:40]

マヒドン大学
Faculty of Public Health
Dr. Kwanjai Amnatsatsue

Migrant Health Promotion and Disease Prevention: Advancing Health Equity in Thailand

人の国際移動は地域間の健康格差に影響する重要な世界的課題である。タイや東アジアの移民は、不安定な就労や法的地位、言語障壁、医療アクセスの制限により高い健康リスクに直面している。ILOによれば、世界の移民労働者は約1億6,900万人、タイには2022~24年にミャンマー出身者170~200万人が滞在する。本発表では、文化的配慮に基づく介入や地域・政策的対応を紹介する。

講演 08 [16:45-16:50]

京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻
社会疫学博士課程 村山裕一

米国MPH留学より学んだ移民の健康

米国での修士課程および研究室・企業での勤務、現地の移民コミュニティとの関わりから得た学びを共有する。また、京大博士課程で移民研究に取り組む動機を紹介する。

会場へのアクセス ……京都大学医学キャンパスG棟3階演習室



〒606-8501
京都市左京区吉田近衛町
<https://maps.app.goo.gl/qSB1Jzize5Jid3Nf8>



鉄道

京阪神宮丸太町駅下車、5番出口より徒歩15分

バス

京都市バス「近衛通」停留所より徒歩5分
hoopバス「京都大学前」停留所より徒歩3分